令和８年度「全国学力・学習状況調査」大阪市立出来島小学校の結果概要

国語科・算数科とも、平均正答率・平均無回答率（問題に何も回答しなかった割合）が全国平均・大阪市平均を下回る結果となった。また昨年度と比較しても、全てにおいて下回っていた。

特に今回は学力の二極化が顕著で、国語科で大阪市平均・全国平均を下回る児童が約６５％、算数科で両平均を下回る児童が約６０％いた。また算数科にいたっては、１６問中正答率が１問以下の児童が数名いたことから、大阪市や全国と大きく差ができた要因となった。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

【国語】

「言葉の特徴や使い方に関する事項（例：次の中から一番当てはまる言葉を選びましょう、次の言葉を漢字に直しましょう）」については、大阪市等平均に近い回答だったが、「読むこと（例：本文を読んで作者が一番言いたいことは何でしょう）」については、同平均と１０ポイント以上の差があった。

【算数】

「図形（例：辺の長さを求めましょう、体積を求めましょう）」については、他の領域と比べ大阪市等平均との差は小さかったが、「変化と関係（例：〇〇の20%はいくらでしょう）」や「データの活用（例：グラフを見て〇〇に当てはまるのは何人でしょう）」については、大阪市等の平均自体も低かったが、それに対しても１０ポイント以上の差があった。

質問調査より

規則正しい生活習慣や学校生活の楽しさ、友だち関係については良好な結果であった。また自尊感情や将来に向けての希望についても高い結果であった。しかしながら学習に対する興味関心は学力と比例して二極化傾向にあり、特に算数科に対して苦手意識を持つ児童が多かった。また「あなたの家には、およそどれぐらいの本かありますか」の項目における２５冊以下の回答が５０％を占めることに比例して、「学校の授業以外に普段、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか」の項目においても１０分以下の回答が６０％以上を占める結果となっている。

今後の取組（アクションプラン）

まずはポジティブ行動支援（基本的な生活習慣や規則を守ることを評価する）を積極的に取り入れながら、物事に意欲的に取り組む姿勢を育んでいく。また基礎学力としての「読み・書き・計算」の確実に定着させていくために、読書環境の充実、漢字テストや百マス計算の定期的な実施を進めていく。その結果、“自尊感情が高まる→学習をはじめとする新しいこと（苦手なこと）に挑戦する→やる前より少しできるようになった→もっとやってみよう→自尊感情が高まる…”というプラスのスパイラルを構築し、自尊感情と学力を並行して向上させていく。